

2022/10/30（日） 頸城駒ヶ岳 根地コース（晩秋山行）

メンバー：L 谷内、福田、岩田、辻、児玉、有賀、

恒例の晩秋山行は糸魚川の頸城三山の一つ頸城駒ヶ岳。林道から駐車場までの細い道の先の駐車場に先客無し。

前夜の雨のせいか登山道は湿っており、泥の上に降り積もった落ち葉で滑り易く足場が悪い。草露でズボンが湿ってくる。駒清水の水場を過ぎたあたりから急登になり「すくみのテラス」までは足場も悪く登っているのに帰りのことが心配になる。

いっづく清水から少し登ると巨大な大岩壁が目の前に立ちはだかる。そそり立つ絶壁はもろくクライミングには向かないようだがその迫力に圧倒される。岩壁をまくようにトラバースし梯子を登ったり下りたり、その後バンドと言われるえぐられたような岩峰の下をくぐるように登る。足元がざれていて落石を起こさないように慎重に進む。その直後に現れた「すくみのテラス」で小休止。眼下にはまさに足元がすくむような切れ落ちた断崖絶壁が。高所恐怖症の人はNG。錦に紅葉した山々の遠景には雨飾山が見える。すくみのテラスからは傾斜も緩やかになり山頂までの登りは一気に楽になる。少しガスってきて眺望を心配しながら山頂に到着。到着した途端青空が広がり陽もあたって暖かい。先客もなく雨飾山には雲がかかっているものの眺望もまずまず。景色を堪能しながらゆっくり休息をとる。

さあ下山と言ったときに2人連れが登ってきた。泥で滑る登山道の下山。気を引き締めながら下山に向かう。急坂が始まる頃12人の横浜からの一行とすれ違うが、そのメンバーのボヤキが聞こえてきた。「こんなつまらない山」。急登でへばっているせいで思わず発した言葉か？つまらないじゃなくて、スリル満点の山なんじゃないのかな？

下山は終始緊張しながら、ロープ、岩、木の枝、笹の葉など掴まれるものは何でも利用。泥に足を取られ悪戦苦闘しながらの下山でくたくたになってしまった。大変だった模様を象徴しているかのように皆、衣服に泥土産がついている。何事もなく無事下山できて本当に良かった。下山途中で振り返ったコース。よくあんな岩壁に登山コースを開拓したものだとただただ感心する。遠景に能登半島や山肌が階段状に削られた特徴ある青梅黒姫山（今年の晩秋山行）も良く見えた。

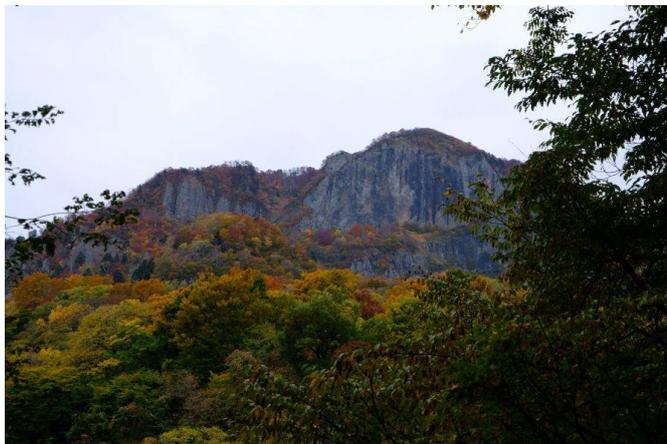
私事ではあるが7月の山行で転倒、肋軟骨損傷が治癒した後、膝痛が悪化。3か月のブランクを経てのリハビリ登山にしてはかなり過酷な山行だった。久々の大腿部筋肉痛のみで膝は大丈夫。テーピングとサポーターのおかげで不安なく山行を終えほっ！としている。

きれいな紅葉が見られ満足しながら、かなりぬるめの「塩の道温泉」で汗を流した。今日が最後の営業日。スキーシーズンまで休業？ラッキー！だった。

【コースタイム】 天気：曇り一時晴れ

山寺口駐車場 07:08～駒ヶ岳 10:20～山寺口駐車場 13:08

頸城駒ヶ岳山頂



紅葉の向こうには北アルプス



垂直に立ちはだかる巨大岩壁



バンドの下はガレ場 落石注意！



この時だけ青空



